

「餅もらい行事・イッサンサン」伝承活動の取組

1 学校名及び子ども会

伊仙町立犬田布小学校

(東犬田布子ども会, 西犬田布子ども会, 木之香子ども会)

2 学年・人数

小学校1年生～6年生 (計63名)

3 日時・場所

(1) 練習

総合的な学習の時間(毎週水曜日と金曜日)・犬田布小学校
夏休み期間中・地域子ども会

(2) 発表

旧暦8月15日前後・集落内の各戸

4 活用に取り組んでいる伝統行事の特徴

(1) 名称 イッサンサン (伊仙町指定無形民俗文化財)

(2) 時代 不詳

(3) 特徴

秋の収穫を感謝し、来年の豊作を祈願する餅もらいの行事で、「アキムチ」や「ムチムレ」とも呼ばれる。伊仙町西部では「イッサンボー」と呼ばれるカカシ様の藁人形を先頭に、イッサンサンの唄に合わせて踊りながら各戸を回る点が特徴的である。カカシを用いる年中行事は奄美大島、喜界島、沖縄には類例がないとされる。

イッサンボーは福の神であると同時に、先祖を模した人形ともいわれ、来訪する祖霊に収穫の感謝と豊作の祈りを捧げるため新米の餅を差しあげる行事だとされる。ただし、餅が菓子に変わるなど現代化している部分も見受けられる。

5 保存会や地域との連携の具体

集落長が行事の日取りや時間を決定し、子ども会や育成会が参加者の応募及び運営を行っている。地域住民主導で行事が執り行われ、小学校における総合的な学習の時間が練習に割り当てられるなど学校との密な連携も図られている。

また、子ども会や育成会には伊仙町役場職員も参加し、活動の記録や取り組みの様子などが各種広報誌等に掲載されるなど、行政と地域の連携による情報発信も活発に行われている。

6 活用の取組の工夫した点

用具の手配や貰い餅の再分配などは地域のPTA, 育成会, 婦人会, 老人会, 青年団並びに壮年団等の団体ごとに役割が分担され, 世代間交流が進むよう配慮されている。

また, イッサンボーが全戸を回れるよう, 団体が班分けされるなどの工夫が凝らされている。広報, 周知については広報無線, 町のホームページ並びに広報誌が利用されており, 島内のみならず島外からの見物客も多い。

7 取組の様子



【集落内を回る子どもたち】



【イッサンボーを中心に踊る子どもたち】

〔むちたぼれ（餅もらい）の唄の一部 木之香集落〕

門口ぬ歌や無礼ながらやーしがよ 物ぬ知らぬわっきやや 許ちたぼれ
※ あらどんどんさまいとさんせー
イッサンサンぬ申ぬとうーしーや 果報どうしー米蔵んまやってくる
粟蔵んまやってくる 来年の稲がなし生まれなはいき
※ あらどんどんさまいとさんせー

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

(1) 児童

大人の人と一緒に参加できる行事であるので非常に楽しい。

(2) 保護者

世代を超えて, 一緒に参加できる行事を大切にしていきたい。

(3) 教職員

島唄を覚える機会としても役立ち, また地域の伝統文化を体験できることは大変貴重であると思う。

(4) 保存会

保存会だけでなく地域の各種団体がこの行事に関わっているのも, 一体感が生まれる行事である。